

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170200772		
法人名	社会福祉法人 地域でくらす会		
事業所名	グループホーム 井上さん家		
所在地 (電話番号)	鳥取県米子市富益町4564-5 (電話)0859-25-0743		
評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号		
訪問調査日	平成21年7月14日	評価確定日	平成21年8月18日

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 人	非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	鉄骨 造り		
建物構造	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	240 円	昼食 400 円
	夕食	360 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おかだ内科クリニック	新納歯科大崎医院
---------	------------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム井上さん家は米子市の郊外にあり、近隣に住宅や福祉施設がある。周囲には畑や空き地も多く見られ自然を近くに感じ取ることが出来る。認知症対応型サービスと併設であり、グループホームとは利用者間の交流は自由に行われている。自治会に加入されておられ地域の見学の受け入れや利用者と一緒に地域のサロンに参加の依頼をされるなど積極的に地域の方との関係作りに取り組まれている。自治会の防災協力員も運営推進会議に参加し、ホームの見学を行い、非常時の避難経路や課題についてもアドバイスをもらう等連携も密に行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回、地域包括センターの担当者、前自治会長、民生委員、家族、職員が参加され防災や地域との連携、交流について話し合いができてホームの役割やサービス内容等の理解も深められた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義と理解を管理者が説明し、職員各自で記入したものを管理者が一部にまとめられた。具体的な改善や取り組みについても、確認できた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議で地域との連携、交流ではいきいきサロンの活用、ボランティアの活用も行われている。防災協力では防災協力員がホームの見学を行い、非常時の避難経路や課題についてもアドバイスをもらう等、地域に密着した取り組みとなっている。また、非常災害時、地域の避難場所としても、ホームを開放し、利用して頂けるよう意思表示をするなど、様々な話し合いが行われ連携ができています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や要望は面会時に管理者に話され、職員会議やカンファレンスで検討され運営に反映される。苦情箱に意見や苦情等の投入は無く、家族から直接職員に対して意見や要望が言える信頼関係が構築されていることが伺えた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に参加され、民生委員さんが窓口となり地域の行事などに参加ができている。近所とは花や野菜をもらうなど日常的な交流が行われている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づき、ホーム独自の理念として「普通の暮らしを保障する」「人間としての尊重を守る」「自己決定の尊重と残能力の活用」を掲げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	サービスの5原則「威圧的・指示命令的な言葉を使わない」「対応するときの視線を利用者と同じ高さで」「やさしく冷静な対応に心がける」「利用者への心配りと気配りを忘れない」「利用者のありのままを受け入れ、何を伝えたいのかを感じ取る」を守り、対人援助の基礎「身体介護・心理的援助・環境整備」に配慮し、朝礼、職員会議、毎日の業務の各場面のなかで理念を確認・共有し日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入し、民生委員さんが事業所の窓口となり、地域活動や老人会・地域の行事にも参加をされている。また、近所の方が花や野菜を持ち寄られ、常に交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義と理解を管理者が説明し、職員各自で記入したものを管理者が一部にまとめられた。具体的な改善や取り組みについても、確認できた。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。地域包括センターの職員、民生委員、前自治会長、家族の参加がある。地域との交流、防災協力員の継続・非常災害時、地域の避難場所としても、ホームを開放し、利用して頂けるよう意思表示をするなど、様々な話し合いが行われ連携ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは書類の変更、手続きなどで行き来しているが、その他は特に機会があまりない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	井上さん家だよりを毎月発行し、担当職員が近況報告や連絡事項を記入し送付している。健康状態や日常生活などは面会時管理者から家族に説明がなされている。医療や体調変化など、緊急時や必要時には電話などで連絡・報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時管理者利用者担当職員が対応している。家族からの希望や要望、意見等が挙げれば、連絡ノートに記入し職員全員で周知を図っている。苦情箱に意見や苦情等の投入は無く、家族から直接職員に対して意見や要望が言える信頼関係が構築されていることが伺えた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来るだけ、職員の異動を最小限に抑え、年度始めに管理者の異動があり、利用者始め家族に挨拶している。新職員については家族の面会時に管理者が紹介をしている。月便りを用いても紹介をしている。利用者や家族にダメージがないよう法人、ホーム内で対人援助のテキストを利用し研修が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が定期的に行われている。同じテーマの研修も年三回異なる時期に開催され、職員はシフトの関係上必ず参加出来る様に配慮がなされている。外部研修については口腔ケアなど必要に応じて研修に参加を促し、伝達講習もホーム内で行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し研修にも参加をしている。また、他グループホームとの交流、包括支援センターとの勉強会に参加しサービスの質の向上の取り組みを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者や家族に見学を数回行ってもらう雰囲気や他の利用者、職員に馴染んでもらえるよう取り組みがなされている。見学時に昼ごはんを食べてもらうなどして雰囲気作りにも配慮がなされている。施設や在宅からの入居には管理者が訪問して家族や本人、施設職員から聞き取りをして安心できるよう関係作りにもめられていることが確認できた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	評価員の訪問日、言葉がを発することができない方やわずかに会話ができる方に声かけしながら食事の介助を行い、食事メニューの説明や本人にあった食事支援がおこなわれ、むせや誤嚥もなくほほえましい場面を見ることができた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床時間の遅い入居者には本人の時間にあわせ、思いや暮らし方の希望・把握し支援に努めている。入浴や散歩、外出等希望に添えるように管理者始め職員が個々に対応がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントやカンファレンスを行い管理者が作成している。入所時や本人の希望や意向を取り入れ、利用者本位の計画作成に努められている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4ヶ月ごとに評価は行われていることが確認できた。カンファレンスが行われ見直しも行われており、	○	カンファレンス記録に参加者名が確認できなかったの で、会議記録等への記入があるとよいでしょう。介護計画の作成やモニタリングを全職員で作成の勉強会を行うなど、理解を深めていただき、実施記録に基づき関係者の意見を取り入れながら見直しをされるとよいでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じ、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの利用者とレクリエーション、散歩や外出を楽しむことができる支援が行われている。家族の通院同行が難しいときや地域の行事参加など事業所の多機能性を活かした支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の意向を尊重しながら、かかりつけ医から協力医に変更している。定期の往診や受診のへ柔軟な支援が行われている。症状や服薬等についても協力医療機関の看護師と相談できる関係確立されている。眼科など専門医には職員が同行し適切な医療が受けられるように支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルについては管理者が利用者本人と家族の意向を踏まえ、協力医、かかりつけ医と相談しながら、意向に添えるよう支援している。法人は利用者本人と家族、関係者の意向を踏まえ、管理者・職員と相談し、意向に沿えるよう方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訪問日プライバシーを損ねるような言葉かけや対応はみられなかった。記録等は鍵のかかる書棚に保管されており、個人情報の取り扱いに、プライバシーの確保に努められていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活状況を把握し希望や意向を把握し、支援の目標に沿った生活ができるよう支援がなされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	デイサービスと一緒の空間での食事が設けられ、個々のレベルでできる事を職員と共に準備や片付けが行われていた。また、メニューについては職員が季節や日々の広告などを参考に、利用者の好みや食べたいものなどを聞いて献立に活かしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況を見ながら、入浴支援が行われ、拒否の強い方には2日一回は入浴して頂ける様に職員が声かけし、デイサービスの利用者と同じように午前中の希望や時間帯にも対応できるように努められている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除ができる入居者には声かけをしながら無理のない程度に手伝っていただきながら役割として生活に馴染んでおられる。草取りの好きな利用者には職員と一緒に、むりのない気晴らしの支援を行っている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を聞きながら近所の散歩や市内にある公園などの外出の支援がある。デイサービスの利用者と散歩や外出を楽しむことができる支援が行われている。地域の祭りや行事の参加にも職員が勤務を入れ替えたり、ボランティアなどとして支援できるように努められている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関や窓などには鍵はかけられていない。入居者の行動や状況を把握し離設のないよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルや年2回の防災訓練の実施が確認できた。自治会の防災協力員とも連携が取れている事が運営推進委員会議録で確認できた。備蓄は水、ビスケット、保存食などが用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量の確保については日々のチェック表で確認ができた。食事介助の必要者には刻み食やお粥を提供し職員が個々の状態に応じ、介助や声かけの支援が行われていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	評価訪問日、ホームには七夕かざりがあり季節感が感じられた。不快な音や臭いも感じられず、いごちよく過ごしておられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、希望や身体状況に応じてフローリングに畳を敷くなど、ベッドを自宅より持ち込まれたり工夫や使い慣れた用具などが置かれてあり居心地良く過ごせる工夫がされていた。		